

【2011年度第Ⅲ四半期（4～12月）事業報告】

専務理事 丸山潔

あと残り2ヶ月、3年連続供給高前年割れとならぬよう
ぜひ生協への利用を集めて下さい！
日本型食生活と発酵食品で
基礎免疫力強化～放射能に負けない身体づくりを！

【第Ⅲ四半期まとめと年度決算見通し】

●常総生協組合員生活エリアのほぼ全域が「放射性物質による環境汚染対処に関する特措法」による『汚染状況重点調査地域』に指定される中、低線量被ばくを少しでも避けるため、放射能調査隊を始め、自治体への働きかけ等、組合員の積極的な活動が各地域で広がりました。また脱原発くらし見直し委員会の活動は目を見張るものがありました。こうした活動が組合員拡大にも寄与しました。

●一方で土壌から作物への放射能移行低減策、情報開示など生産者の努力はあるも、地元の米や野菜セットを始めとする地場産品の利用は今だに回復せず、引き続きの課題です。

●今年の年末年始はカレンダーの都合上、注文書の2部提出が3週連続となり、たいへんだった事と思います。堅調な注文書提出率も12

月には大幅に下がりました。

●年度決算見通しは、経常剰余では711万円の黒字ですが、原発特別損失を加えた純損益は191万円の赤字の見通しです。原発特別損失については、東京電力に対し、事故による逸失利益も加えて損害賠償請求を行っています。（3～8月分まで、9月分以降は今後）年度決算に間に合うよう、東電への要求をしています。今年度中の累積欠損の解消については、東電の賠償の結果次第とならざるをえません。

《組合員の動き》（共同購入）

【期首活動組合員数】4,498人

【加入】546人（前年412人）

【脱退】436人（前年371人）

【12月末活動組合員数】4,659人

（純増）161人

■2011年度決算

■4～12月累計実績

	実績	計画比	前年比
供給高	870,647,384	96.9%	98.9%
（共同購入）	834,253,577	96.9%	99.1%
（店舗）	36,393,807	94.0%	87.7%
供給剰余	233,063,597	96.4%	98.5%
（GPR）	26.8%		
人件費	119,726,419	96.8%	94.7%
物件費	106,418,528	93.7%	101.8%
事業剰余	6,918,650		
事業外損益	4,892,910		
経常剰余	11,811,560	197.8%	116.1%
（NET）	1.4%		
震災支援・原発特別損失	8,429,632		
純損益	3,381,928		

■年度決算見通し

	2011見通し	計画比	前年比	備考
供給高	1,129,788,384	95.4%	97.9%	11億8,410万円が総代会予算
（共同購入）	1,082,159,577	95.5%	98.4%	組合員数純増に転ずるも利用低迷
（店舗）	47,628,807	94.3%	87.7%	来店者数減
供給剰余	302,811,597	97.3%	95.0%	
（GPR）	26.8%			
人件費	159,298,419	97.8%	102.0%	放射能検査室新設、組織部補充未
物件費	142,249,528	95.9%	103.9%	事務所補修、事務機器入替
事業剰余	1,263,650			
事業外損益	5,852,910			
経常剰余	7,116,560	71.2%	32.3%	
（NET）	0.6%			
震災支援・原発特別損失	9,029,632			放射能外部委託検査、ガラスパッチ、相馬海苔養殖支援
純損益	-1,913,072			

【共同購入月次実績推移】 ※受注ベース

	【加入】			【脱退】	【OCR回収】			【一人当利用高】			【供給高】			
	計画	実績	計画差	実績	実績	計画比	前年比	回収率	実績	計画比	前年比	実績	計画比	前年比
4月	57	32	-25	87	17,938	100.6%	97.7%	84.5%	5,937	102.3%	106.3%	89,999,735	102.8%	103.9%
5月	58	45	-13	45	17,861	99.7%	97.0%	83.3%	5,535	96.6%	98.4%	82,359,958	96.3%	95.3%
6月	69	64	-5	29	22,317	98.6%	96.4%	85.5%	5,808	99.3%	100.2%	110,773,196	97.9%	96.6%
7月	71	81	10	60	17,900	99.8%	97.4%	83.4%	5,695	97.8%	99.8%	85,033,867	97.5%	97.1%
8月	51	57	6	47	22,523	100.9%	125.0%	75.3%	5,136	98.8%	99.5%	87,211,553	99.5%	124.1%
9月	104	79	-25	45	18,143	102.4%	99.3%	83.5%	5,390	96.9%	100.9%	81,715,466	99.2%	100.1%
10月	127	74	-53	43	18,242	100.1%	100.9%	84.6%	5,436	97.5%	99.5%	83,857,065	97.6%	100.3%
11月	160	77	-83	40	22,983	98.4%	99.5%	84.1%	5,474	98.0%	99.2%	105,791,181	96.5%	98.8%
12月	90	37	-53	40	23,212	95.3%	96.6%	79.0%	6,515	97.1%	96.9%	118,482,393	92.7%	93.6%
累計	787	546	-241	436	181,119	99.3%	100.5%	82.4%	5,658	98.2%	100.0%	845,224,414	97.5%	100.1%

COOP JOSO NEWS LETTER 2012 2-3

2012.01.30

常総生活協同組合

発行/専務理事 丸山
tel:050-5511-3926

COOP-JOSO News Letter

2011年度活動テーマ

発酵食品で放射能に打ち克つ健康づくり。人々の協同で被災地復興と大地再生。

発酵と復興

【ものづくり、人づくり、地域づくり】 震災・原発事故からもうすぐ1年

「脱原発くらし見直し委員会」 チェルノブイリレポート翻訳プロジェクト 低線量被ばく「過小評価」 の流れは許さない！

●被ばく後25年経って明らかにされたチェルノブイリ原発事故による健康被害。この事実には学ぼうと19名の脱原発くらし見直し委員が正月返上で分担して翻訳作業をすすめました。一冊にして二次校正に入りました。

●委員による自主校正の後、元筑波大教授・生井兵治先生、日本消費者連盟・マーティン フリッドさんらが校閲の協力をして下さいます。

●二月末までには組合員のみなさんにもご案内の予定です。

【味噌づくり講習会日程】

地 区	日 程	会 場	その他
取手市	2月 1日(火)	ゆうあいプラザ	●時間は原則として10時～12時です。 ●味噌づくりの先輩組合員さんがお手本を見せながらいっしょに実演してゆきます。 ●「講習」は作り方の実演デモを基本にします。 ●詳細のご案内は地区別に配布されるチラシをご確認下さい。
流山市	2月 2日(水)	生涯学習センター	
つくば市	2月 3日(金)	小野川交流センター	
守谷市	2月 7日(火)	高野公民館	
土浦市	2月 8日(水)	二中地区公民館	
我孫子市	2月10日(金)	アビスタ	
牛久市	2月14日(火)	中央生涯学習センター	
龍ヶ崎市	2月16日(木)	駒柴公民館	
柏市	2月17日(金)	光ヶ丘近隣センター	
※週末開催	2月18日(土)	生協本部(守谷)	

どの会場に参加頂いても結構です。子どもさん連れも大歓迎！
申し込みは地区別チラシまたは本部まで直接お電話で。

【脱原発・くらし見直し委員会 翻訳プロジェクト】

「チェルノブイリポート翻訳プロジェクト」 19人の組合員チームによる翻訳作業大詰めに！

●低線量被ばく「過小評価」の流れ

政府は、広範な国民への被ばく責任を棚に上げて、内閣府顧問会議を使って『低線量被ばくのリスク管理に関するワーキンググループ報告書』（12月22日）の中で「低線量被ばくは心配ない」「100mSv以下の被ばくは他の発がん影響に隠れるほど小さい」との見解を公然化させました。また「事故後1ヶ月のうちに年間20mSvを基準に避難区域を設定したのはチェルノブイリ事故後の対応より厳格であった」「国際機関における合意として、チェルノブイリ周辺一般住民では白血病その他の疾患の増加は科学的に確認されていない」という報告を明らかにしました。

※内閣府 顧問会議「低線量被ばくのリスク管理に関するワーキンググループ(WG)」

原子カムラと官僚たちは、当時の枝野幸男内閣官房長官に働き掛けて8月に「顧問会議」をつくらせ、政府を「指導・助言」する体制を敷きました。この顧問会議の下に「低線量被ばくのリスク管理に関するワーキンググループ」を作り、11月9日以後8回にわたって御用学者を呼んで細野豪志原発事故担当相はじめ政府高官に徹底してレクチャーして叩き込みました。12月15日に見解をマスコミ発表し、22日「報告書」を細野大臣に提出した

福島の子供たちが集団疎開を求めた裁判もこの国の見解の発表を待って、「100mSv以下の晩発性障害については実証的裏付けはない。」(福島地裁郡山支部)として却下されました。国や地方自治体が将来の子供たちの被ばくを少なくしようと努力するのではなく、国・地方・裁判所が一体となって被ばくを容認する流れが作られようとしています。

国際社会でも同様にIAEA(国際原子力機関、UNSCEAR(国連科学委員会)、WHO(世界保健機構)は、世界の御用学者を総動員して「チェルノブイリ・フォーラム」(2003～05年)を開催し、その集大

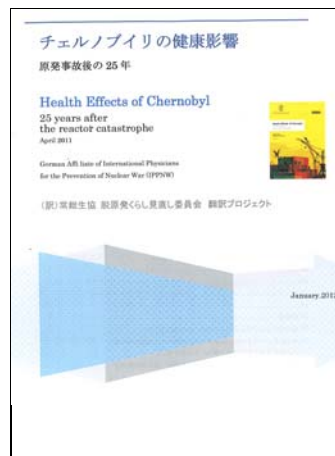
成として『チェルノブイリの遺産』(2006)を刊行しました。チェルノブイリ原発事故による健康と環境への影響を、現地のデータ

や論文を意図的に無視し、ガンだけを指標にして影響を「過小評価」してゆく巨大な動きです。

●現地の客観的な事実をもって対抗

こうした「過小評価」「事実の抹殺」の大きな流れに対して、現地の客観的な事実をもって対抗し批判する著作が発刊されています。ひとつはロシアの生物学者ヤブロコフ博士らによる膨大な現地データを使って編集した『チェルノブイリ 人々と環境への大災害の帰結』(ニューヨーク科学アカデミー紀要vol.1181・2009年)・もう一つが今回翻訳チームが取り組む『チェルノブイリによる健康被害 原発事故後の25年』(核戦争防止国際医師会議ドイツ支部・2011年4月)。事故作業、乳児死亡率、遺伝的・催奇性損傷、甲状腺がん、すべてのがんおよび白血病、その他の疾患について、チェルノブイリ地方・ドイツ・その他の国にわけて報告されています。

この報告書を見ておくことは、日本の子供たちの健康の10年後、20年後に向けた対策や心構えとして大変重要ですし、この歴史的事実から日本政府・低線量被ばくWGによる「100mSv以下の被ばくは他の発がん影響に隠れるほど小さい」に実際の事実をもって対抗する基礎になると思います。



【地域の放射能汚染実態調査】

生協を超えて地域のみなで力を合わせて 土壌汚染調査スタート！

1/21(土)「田中優さん講演会」(松戸市民会館ホール)に常総生協も参加

●地域で放射能汚染対策・脱原発に取り組む仲間で交流

原発事故による放射能汚染をきっかけに東葛地区で暮らすママやパパたちがつながった「こども東葛ネット」が中心になって開催された講演会&イベント「いまからできること！～放射能とエネルギーのはなし・田中優講演会」に常総生協も参加しました。事故後の常総生協の放射能対策や被災地支援の活動を知った「こども東葛ネット」の方からの「是非、活動の様子を発表して欲しい」とのお声掛けが参加のきっかけでした。

当日は、千葉県内の生協、脱原発、除染に取り組む地域の人々などがブース出展し、それぞれの取り組みの発表と交流を行い、この地域の暮らしを守っていくつながりを実感出来た催しとなりました。

●「脱原発くらし見直し委員会」の組合員メンバーも参加

「脱原発くらし見直し委員会」からも千葉地区の委員が参加。「放射能調査隊」の調査結果をまとめた汚染マップやニュースレターなどの資料を配布しながら、常総生協の取り組みを熱心に地域の人へ伝えました。



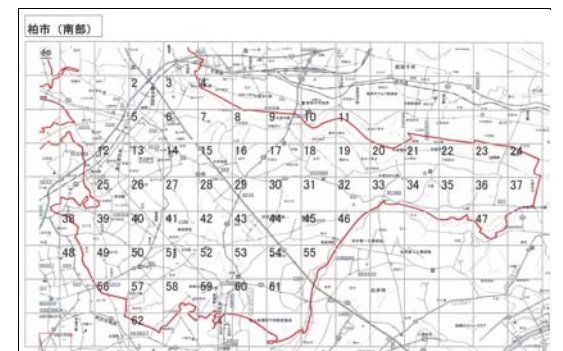
●常総生協のリードで生協を超えて地域のみなで土壌採取へ

常総生協で進めている「地域の放射能汚染実態調査」を生協を超えて地域みんなでの取

り組みにしようと当日の来場者に土壌採取への参加を呼びかけ。

生活クラブ生協の組合員さんは「すごい取り組みですね。わたしは生活クラブに参加しているけどいい？」と真っ先に参加。「うちはマンションだけど近くに土を取れそうな所がないから幼稚園の送迎の途中で取ってきます！」とパルスシステムの組合員さん。東京大学柏の葉キャンパスに留学している学生さん5人組も「柏の葉近辺の計測をきちんとしてほしい」と参加。総勢14名が土壌採取に参加、友達にも呼びかけしてくれる事になりました。

1kmメッシュに区切った地図を見ながらどの地区の土壌を取ってくるかをその場で相談し、翌日から即実行の運びとなりました。



●常総生協供給エリア1,500メッシュの土壌採取にご協力を！

組合員みんなの協力で原発事故1年次の地域の放射能汚染実態を記録した「土壌汚染マップ」を作っていきます。組合員さん自身はもちろん、お友達にも声をかけていただきたいと思います。

「参加します！」という方は供給担当までお声掛け下さい。土壌採取地点の選び方、採取方法など供給担当から説明をいたします。